

仙人通信 101 三国山 (1636m)・三角山(1685m)

三国山は、国道 17 号線の三国トンネルの北東に位置し、この時期ニッコウキスゲが咲くので有名な花の山である。三国トンネル横の上州路三国峠みちの道標からスタートである。台風 6 号が南海上に過ぎ、晴天が期待できたのであるが、ガスが立込め、シットリとした静かな路だ。ミヤマカラマツの白い花・太いブナ林・等々すでに標高 1000m を超える高さである事を実感する。三国峠までは、九十九折ながらも整備された 1.5 km の道程である。司馬遼太郎著の「峠」の主人公で長岡藩士の河井継之助が吹雪の中、この峠路を越へ江戸に向う姿を想像し、今自分で同じ路を踏みしめて偲ぶのも悪くはない。

露に濡れた青いヤマアジサイ・白いカワウツギ・紫のアキノタムラソウと鶯や瀬音と共に迎えてくれたのは嬉しかった。御坂三社神社が祀られた三国峠には 30 分程で到着だ。神社横の石碑には峠を越えた有名人の名が刻まれており、河井継之助の名前もちゃんとあった。神社の横手ではシシウドが大きな花を付け、クガイソウの花も霧に濡れて幻想的である。やがて木の階段が始まり、木々も小柄の落葉樹へと変わる。アオダモ・ムシカリ等が白い花を付け、紫の薊は滴る水で重そうである。キスゲが見え始めるが、盛りを過ぎ萎んでしまったのが多い。ピンクのシモツケや白い小さな花のコメツツジが目を引く。30 分で草原台地に出る。ここでは、元気なキスゲが山肌一面を黄色に染め、その中にシモツケやコオニユリそして白いムシカリが花の大地を飾る。立込めていた霧から抜け出し、周囲が開けると、先に登った稲包山や苗場の山々が雲海に浮かぶ。ここからは雲の上のコースだ。

階段の横の頁岩のガレ場では、黄色いコキンレイカやハハコ・コオニユリ・ギボウシ・シモツケ・ツルツゲが彩る。花畑の中を 40 分登と小さな三国山の山頂に立つ。山頂を示す道標の横に『平和の鐘』があり、木槌で叩いてみる。鉄の鋳物のような鈍い音色だ。

山頂から若干戻り、平標山への尾根道に向う。往復 3 時間で可能な所まで進んでみる事にした。このコースは訪れる人が、この時期少ない様で、熊笹の尾根路には足跡が少ない。登山道の幅 1 m 程に笹が極最近、切開き整備されている。白いヨウラク・ムシカリ、黄色いクモマニガナ・トリアシヨマ・そして梅干大のイワウメ・赤い実に星状の白い柄のあるイワハゼ・マイズルソウ・クロマメの木の実が至る所にある。一つのピークを超えるのに 30 分程度である。前方には草原状の大源太山が、右手には谷川の山が雲海の上に浮かぶ。正に雲上人であり、気分も最高なのだが、刈りたての濡れた熊笹が登山道に敷き詰められて、よく滑り慎重になるため時間がかかり、もどかしい。足元では、小さなコゴメクサも白い花をつける。出来れば大源太までと思っていたが、手前の三角山で 1 時間半となり、先へ進むのを断念して、潔く戻る事にした。三角山の山頂直下 500m では、山小屋の人であろうか、エンジン付きの草刈機で大源太山に向かい笹の刈り取り中であつた。途中から三国山の山頂を捲くコースがあり、そちらに進むと白いキセル状のギンリュウソウが待っていてくれたかのように過去に見た事も無い量で、一面に咲いていた。

ほぼ 6 時間、花たちに埋もれられた最高の山旅となった。(H23.7.22)

キスゲの草原



コキンレイカ



シモツケソウ

